

平成28年6月20日

地区理事各位
連盟委員会委員長各位
連盟登録チーム各位

栃木県サッカー協会4種委員会
栃木県少年サッカー連盟
会長 高瀬利明 公印省略

栃木県少年サッカー連盟熱中症ガイドライン

～JFAガイドラインの遵守による平成29年度の連盟事業の見直しについて～

<基本的な考え方>

余裕のある運営を！（無理な日程は組まない）

- (1) 地域リーグ戦・県トップリーグ1部・2部の日程の見直し。
- (2) 地域トレセン・県トレセンの日程見直し。
- (3) 地域キッズ開催の日程見直し。
- (4) 県決勝大会に伴う地区予選の日程の見直し。
- (5) JFAガイドラインに沿った大会要項・運営をする。

<今後の方針>

○平成28年度は下記のように実施する

○JFA熱中症ガイドラインの厳守とする（栃木県サッカー協会理事会の協議より）

*第2回関東大会栃木県予選もWBGT計測機の指数を測定し大会運営 (別紙参照)

- * JFAのガイドラインとは異なるが栃木県少年独自の計測として運営する
理由・入梅前後の天候不順により、選手の気温に対する対応能力が不足しているため
(子供の身体は気温に適応するまで約2週間かかると言われていたため)

- (1) 6月～7月 気温25度以上・WBGT=21°Cにて 1分程度の給水タイム導入
①ベンチテントにて飲水する・スポーツドリンク不可
②指導者の試合に対する指導は不可
- (2) 7月～9月 気温・WBGT計測機が下記の指数を示したらクーリングブレイクを導入して行く。
気温28度かWBGT=29°Cにて クーリングブレイク導入
※選手・審判員共にクーリングブレイクを導入する。
※7月8月は飲水タイムを取らないで、すべてクーリングブレイクとする。
- (3) クーリングブレイク
①ベンチに戻してテントのなかで休ませ、身体を冷やす。
②スポーツドリンクを許可する。
③指導者の試合に対する指導を許可する。

- ④氷などをクーラーボックスに入れて持参してもよい。
- ⑤その他、選手の冷却処置に使う器具類は本部の許可を得て使用する。

(4) 日程設定

- ①WBGT = 31° 以上となる時刻にキックオフ時刻を設定しない。
- ②熱中症計測機を設置して、ガイドラインA・Bの準備を行う。
- ③私的な地区内の招待大会や県予選は無理のないように安全第一な運営をする。
- ④試合の開始時間を早めて日中の12時～15時は休憩タイムを導入
- ⑤一日2試合までの試合時間とする。 **3試合の場合は15分ハーフとし前後半にクーリングブレイク3分を全試合に導入していく。**
- ⑥緊急の場合の病院を確保する。

(5) 会場設定

- ①ベンチには運営者が簡易テントを準備するか、チームが持参する。
- ②会場責任者は事前に飲料水補給の有無を確認し、チームにスポーツドリンクの補給方法の伝達をする。
- ③スポーツドリンクなどを補給の場合はベンチから離れた場所を設定し補給させるか主催者側で場所を設置する。

(6) 指導者

- ①熱中症ガイドラインを熟知して試合に臨む。
- ②当日のサポートメンバーを含む全ての選手の健康管理を行う。
- ③朝食抜きの選手が出ないように事前に指導を行う。
- ④前日に風などで練習を休んだ選手には最善の注意を払う。
- ⑤試合当日の監督会議にて主催者側の熱中症対策を聞く。

(7) 審判員

- ①原則として、チームに有利・不利が生じないアウトオブザプレー時に主審が判断してクーリングブレイクを設定する。
- ②戦術的な指導者の指示も容認する。
- ③クーリングブレイクの時間を厳守する為に試合再開時には選手に速やかにポジションに戻るよう促すと同時に出場選手の確認を行う。
- ④クーリングブレイクに要した時間は、(その他の理由)によって費やされた時間として前後半それぞれの時間に追加される。 **ロスタイム同様に**
- ⑤ **試合時間 51分とする。**

前半 20分 ハーフタイム5分 後半20分

クーリング3分 クーリング3分

- ⑥試合の途中にて数値が上がった場合は後半よりクーリングブレイクを導入して選手の安全に備える。

(8) その他

- ①上記以外に記載されていない場合は、県理事相互で話し合い決定する。
- ②その後の理事会にて理事全体で協議して、次の日程・会場・試合に備える。

(9) 地区あるいは私的な招待大会等について〈県理事・地区理事への重要事項〉

* JFAの熱中症対策を読み、十分な注意を払い運営する。

* 万が一、事故等が発生した場合、県協会・県少年連盟としては対処できないので十分に注意する。

* 連盟の熱中症対策を熟読する。

- ①連盟登録チームは上記クーリングブレイクを積極的にとりいれて選手の安全を第一に考えて大会の運営にあたる。
- ②一日2試合を限度に試合日程を組む・試合開始を夏場などは開始時間を早めに設定し午後の2時～3時半までは休憩タイムとする。
- ③一日3試合を組む場合は、試合時間を15分ハーフとして前後半にクーリングブレイクを導入して行く。
- ④選手が休める涼しい場所の確保とベンチ下などにシートを引き選手のスポーツドリンク飲水ができるように段取りをする。
(事前に施設管理者と協議して、許可をとる)
- ⑤緊急な場合は救急車を呼び選手の安全を確保する体制をとる。
- ⑥主催者は一日保険に加入して万が一にそなえる準備をする。
- ⑦すべての会場に熱中症計測機を設置して対応する。
- ⑧落雷に十分に注意し大会要項にも、落雷の場合はそく中止か延期の有無を書き入れる。